



昨年12月で試験運行を終えた「おでかけ号」▶

## 総務部門

### Q おでかけ号について

**A** 路線バスの存続を第一として  
運行ルート等は検討したい（三村町長）



藤本哲智議員

**Q** 住民が幅広く「おでかけ号」の恩恵を受けられるよう、新たなコースや本数など、細かく検討すべきではないか。

**A** 半年間の試験運行において、5カ月経過時点で延べ3千105人、1便あたり平均4.1人の利用があった。来年度に本格運行へと移行したいが、警察署や路線バス、タクシー事業者との調整が必要であり、事業の検証結果と合せて検討し判断したい。本格運行する場合、運行ルート等は現在の状態が認知されており、停留所も土地所有者等に理解いただいた経緯がある。特に路線バスの存続は肝要であるため、ルートを大きく変えることは難しいが、幅広く住民が利用できるようなルートや頻度等を検討したい。



渡絃八議員

### Q 税関連について

（国保会計への繰入など）

**A** 一般会計から赤字補填のための繰入は生じていない（三村町長）

**Q** ①国が標準税率を定め、町条例で税が決定する中、増税される項目はあるか。  
②地方交付税の推移は。  
③一般会計から国民健康保険特別会計に、過去3年間でいくら繰り入れされたか。  
④国民健康保険事業の広域化における課題等は。

**A** ①全て標準税率と同じ税率。  
②平成21年度から福祉事務所の設置により、特別交付税が増加している。また町税の減少に伴い普通交付税が年々増加している。  
③総額で約4億1千700万円だが、赤字補填のための繰入は生じていない。  
④財政負担の在り方や、市町ごとに異なる保険税の取扱いなど様々な課題があり、慎重に検討し準備を進める。



第5次熊野町総合計画▶

### Q 町長の2期目の抱負

**A** 第5次総合計画を具体的に展開していきたいと考えている（三村町長）



民法正則議員

**Q** これからの4年間の抱負は。また、子供の体力・運動能力の向上対策及び、宿泊施設を伴った観光施設の誘致についてはどうか。

**A** 単独町政の堅持を前提としてスタートした第5次熊野町総合計画は、各施策目標に沿った事業については順調に進捗している。更に実施に必要な事務事業を明らかにするため、平成25年度から3年間の実施計画を策定、総合計画を具体的に展開していきたいと考えている。  
子供の体力・運動能力の向上は、学力向上とともに、教育の根幹をなす重要なものと認識している。観光施設については、民間都市開発推進機構の資金等を活用した補助金による支援を広く周知し、町内の団体や民間企業の協力を期待したい。



荒瀧穂積議員

### Q 熊野町の課題

（高齢化・福祉対策など）

**A** 元気な高齢者が活躍できるまちづくりを行っていききたい（三村町長）

**Q** ①高齢化・福祉対策  
②人口減対策  
③地域産業振興  
④教育関連（耐震化・家庭教育）について伺う。

**A** ①「お互い様のまちづくり」の重要性等を認識し、サロン事業にも力を入れてきた。本町の介護認定率は、県内で最も低い状態を維持しており、元気な高齢者が活躍できるまちづくりを行っていききたい。  
②子育て世代の増加が必要。子育て世代の住宅取得に対する補助を一方策として、早急に検討していく。  
③筆の里工房を拠点として、筆文化の振興を図るとともに、熊野筆の品質の良さを伝え、熊野筆のブランド化推進を図っていききたい。  
④教育は町づくりの根幹と考えており、特に学校の安全など児童生徒の学習環境の整備と基礎学力の向上に力を入れていきたい。

